

外国人児童の教科書理解度に関する研究

－社会科教科書を用いた語彙調査から－

早野 慎吾(宮崎大学)
松井 洋子(宮崎公立大学)
田中利砂子(志學館大学)

1. はじめに

近年、第二言語としての日本語(Japanese as a Second Language : JSL)を学ぶ子どもが急激に増加している。その結果、学校現場ではコミュニケーションの手段である日本語ができず、文化的背景も異なる児童生徒の就学という事態に直面することとなった。

外国人児童生徒における教科教育の研究報告は、教科書教材の語彙および文型など、文献に関するものが多い。このような研究の意義は大きいですが、同時に外国人児童生徒の日本語力に関する実態調査も必要である。実際に外国人児童生徒にとってどのような語彙や構文の理解が困難で、日本人児童生徒とどのような違いがあるかなどを分析することによって、より高度な教育支援が可能となる。

学年により難易度は異なるが、教科に関しては社会科の難易度が高いという指摘が多い。白鳥他(2000 : p.136)では「社会科は国語科とならんで、小学校の教科書の中で最も難易度が高いと思われる」と指摘されている。工藤他(1999 : p.107)では高学年の社会科教科書を「児童が小学校での教育を受ける中でもっとも難易度の高いと思われる語が含まれる文章」として扱っている。松井・早野(2006 : p.70)では、宮崎県での調査から社会科と国語科が不得意な教科となっている実態を報告している。筆者たちは、特に難易度が高いと思われる高学年の社会科教科書を用いて日本語理解度調査を外国人児童および日本人児童、また外国人留学生に対して実施した。本研究では、その調査をもとに各集団の日本語力(語彙力)を比較しながらその特徴を分析する。

2. 調査概要

調査は平成 19 年 5 月から 7 月にかけて栃木県真岡市にある真岡小学校・真岡西小学校・真岡東小学校に在籍する外国人児童・日本人児童、および宮崎県・鹿児島県在住の留学生(大学生・大学院生)に対して行った。外国人児童には、日本生まれで日本育ちの話者も含まれている。その話者を FJB (Foreigners of Japanese Birth) 児童と表現することにする。その児童たちには、日本生まれであっても保護者の母語を第一言語として習得している可能性がある児童も含まれている。調査対象者は JSL 児童 18 人、FJB 児童 21 人、日本人児童 40 人(5 年生 20 人、6 年生 20 人)、外国人留学生 29 人(漢字圏 21 人、非漢字圏 8 人)の計 108 人である。

JSL 児童の母語はポルトガル語 9 人、スペイン語 8 人、タイ語 1 人で、すべて非漢字圏の話者である。在日期間は 6 ヶ月～12 年 1 ヶ月までと幅広く、平均で 4 年 3.8 ヶ月である。FJB 児童の保護者の母語はポルトガル語 9 人、スペイン語 8 人、タガログ語 3 人、ベトナム語 1 人である。さらに家庭で保護者の母語を使用することがある FJB 児童は 21 人のうち 12

人である。留学生の日本語学習期間は漢字圏2年11.1ヶ月、非漢字圏5年1.1ヶ月である。

調査項目には真岡市が社会科教科書として使用している『新編新しい社会5下』（東京書籍 平成18年度版）の日本の風土と大きく関係した単元「わたしたちの国土と環境」の「さまざまな自然とくらし」(p.30-47)を使用した。5年生の教材を使用したのは、真岡西小日本語指導担当教員の意見による(注1)。調査時において、5年生はこの単元を学習しておらず、6年生は学習済みである。調査は語彙調査と文章調査の2種類を行ったが、本稿では語彙調査のみを扱う。語彙調査は教科書 p.40-41, p.46-47 に使われている語彙、および他の頁で使用されている外来語6項目を追加した213項目(語彙)を抽出して、わからない語彙にチェックをつけてもらった(注2)。

3. 語彙の理解度

図1～図5は語彙調査の結果をまとめたものである。縦軸は「わからない」と回答した話者の比率であり、語彙の不理解度を示している。100%の位置にある語彙は理解者がひとりもない難易度が高い語彙である。0%の位置にある語彙は、すべての話者が理解している難易度の低い語彙である。

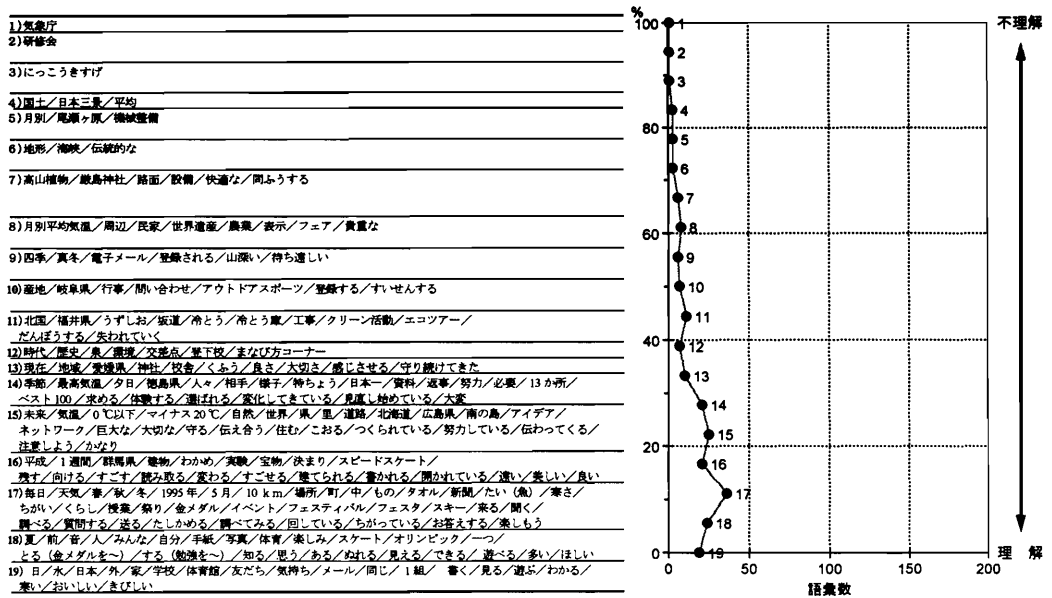
JSL 児童の60%以上が理解できなかった語彙は「気象庁／研修会／にっこうきすげ／国土／日本三景／平均／月別／尾瀬ヶ原／機械整備／地形／海峡／伝統的な／路面／設備／高山植物／快適な／同ふうする／表示／農業／周辺／民家／月別平均気温／世界遺産／厳島神社／フェア／貴重な」の26語(項目)である。60%以上のFJB 児童が理解できなかった語彙は「にっこうきすげ／気象庁／尾瀬ヶ原／海峡／日本三景／国土／厳島神社」の7語であり、日本人児童では「にっこうきすげ／日本三景／尾瀬ヶ原／厳島神社(6年生のみ)」の4語だけである。

60%以上の児童が理解できていない語彙は、ほぼ児童たちが日常生活では使用しない語彙である(注3)。ただし、日本人児童の場合「にっこうきすげ／日本三景／尾瀬ヶ原／厳島神社」のような地理(特定分野)に関係した専門性の強い語彙だけなのに対して、JSL 児童の場合「平均／月別／地形／路面／表示／農業／周辺／快適な／伝統的な」などの一般的な文章で使用される語彙が多く含まれていることが特徴的である。「路面／月別」などは日本人でも約20%が不理解であるが、JSL 児童とは大きな差がある。

60%以上のJSL 児童が理解できない語で、国立国語研究所編(1984a)における「基本語二千」に含まれている語は「平均／整備／農業」の3語だけである。また工藤(1999)における「基本語A」(6種類の資料から3種類以上に共通している語)に含まれている語は「農業」だけである(注4)。基本語だけでは対応できない実状がここにある。日本人の場合、専門性の高い語彙を学習すればよいのだが、JSL 児童の場合、多くの文章語も同時に学習しなくてはならない。このことが教科教育を困難にしている大きな要因と考えられる。

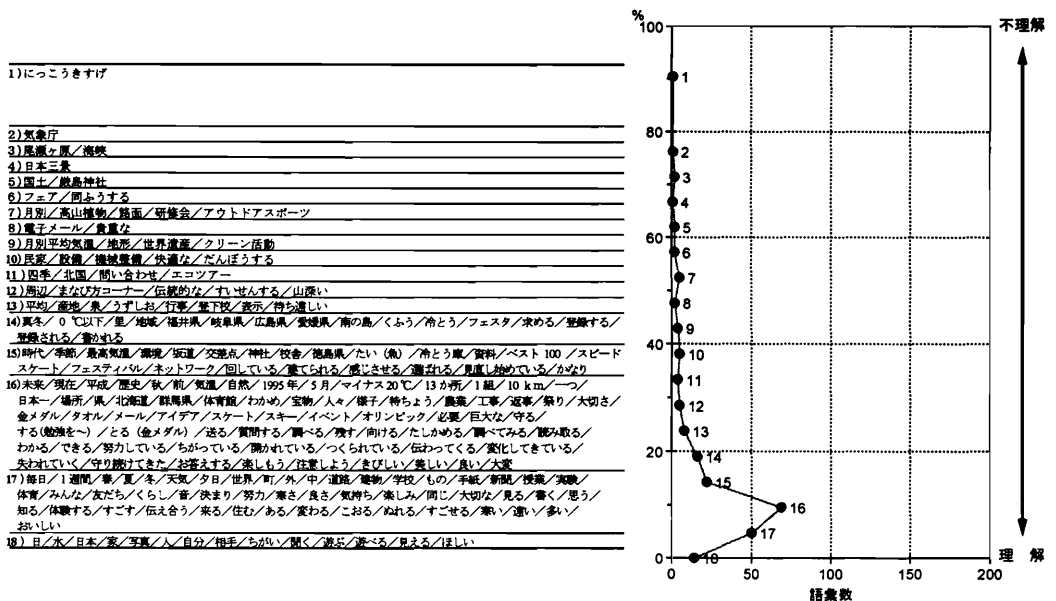
工藤他(1999)では生活語彙としての側面が強い2410語(96基本語彙)と小学校高学年の社会科語彙の共通項について報告している。96基本語彙と社会科教科書の共通項は29.7%であり、約70%の語彙が96基本語彙ではカバーできていない。資料の共通項からみても、高学年の社会科には生活語レベルの語彙力では対応できないことがわかる。

FJB 児童のグラフ(図2)はJSL 児童(図1)と日本人児童(図3・4)の中間に位置している。すべての話者が理解できている語彙は少なくJSL 児童に近いが、80%以上が理解し



※教科書との異同：5月(教材では1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月)、10km(100km、500km)
 他の頁に記載されている語：ネットワーク(ネットワーク図p.32、p.35)、クリーン活動(p.32)、アウトドアスポーツ(p.43)、アイデア(p.35)、
 エコツアー(p.34)、フェア(北海道物産フェアp.42)

図1 JSL児童



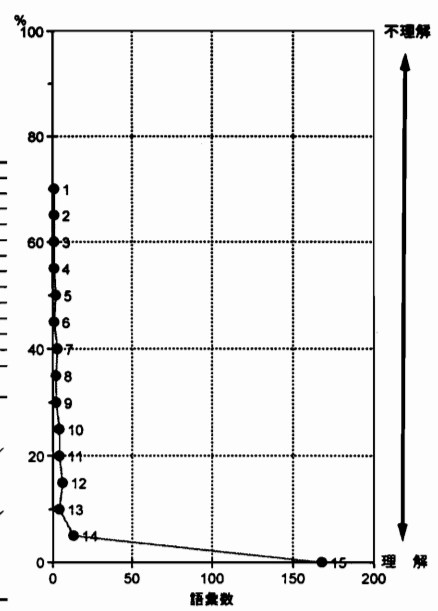
※教科書との異同：5月(教材では1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月)、10km(100km、500km)
 他の頁に記載されている語：ネットワーク(ネットワーク図p.32、p.35)、クリーン活動(p.32)、アウトドアスポーツ(p.43)、アイデア(p.35)、
 エコツアー(p.34)、フェア(北海道物産フェアp.42)

図2 FJB児童

1) にっこりますげ
2) 日本三景
3) 尾瀬ヶ原
4) 海鏡
5) 気象庁 / 釧路神社
6) 高山植物
7) 国土 / 西ようする / 山奥い
8) 世界遺産 / 徳島産物
9) 北国 / 貴重な
10) うずしお / 研学会 / アウトアスポーツ / だんぼうする
11) 路面 / 電子メール / フェア / 快適な
12) 月別 / 秋晴 / 雨 / 合わせ / まなび方コーナー / クリーン活動 / エコツアー
13) 地形 / 産地 / 開かれています / ネットワーク
14) 月別平均気温 / ベスト 100 / フェスタ / 表示 / 伝統的な / 見直し始めている / ある / すぐせる / 回している / 書かれます / 尊敬される / 感じさせる / お答えする
15) 未来 / 現在 / 前 / 平成 / 日 / 毎日 / 神々 / 歴史 / 四季 / 季節 / 春 / 夏 / 秋 / 真冬 / 冬 / 天気 / 平均 / 気温 / 最高気温 / 0℃以下 / マイナス 20℃ / 1995年 / 5月 / 1週間 / 10 km / 1組 / 日本 - 13か所 / 一つ / タ日 / 水 / 自然 / 環境 / 春 / 夏 / 世界 / 日本 / 北海道 / 町 / 場所 / 周辺 / 外 / 中 / 家 / 神社 / 学校 / 校舎 / もの / わかぬ / 手紙 / 写真 / 新聞 / 返事 / 授業 / 体育 / 英語 / わかぬ / 宝物 / 資料 / みんな / みんな / 自分 / 友だち / 相手 / くらし / 行事 / 様子 / 持ちよう / 授業 / 体育 / 英語 / 筆下校 / 工事 / 農機 / 祭り / 冷とう / 雨 / 雨 / 道草 / 努力 / くふう / 気持ち / 決まり / ちがひ / 楽しみ / 楽しさ / 良さ / 大切な / 同じ / 必要 / 巨大な / 大切な / 金メダル / タオル / メール / アイデア / イベント / オリジナル / フェスティバル / フェスタ / スケート / スピードスケート / 見る / する (勉強を-) / 書く / 聞く / 質問する / 調べる / 送る / とる (金メダルを-) / 探す / 求める / 向ける / 知る / 覚悟する / 守る / 体験する / たしかめる / 思う / すぐす / 覚悟する / たしかめる / 体験する / 調べる / 読み取る / 思う / 遊ぶ / 住む / 来る / ある / 覚悟する / こある / わかる / できる / 伝える / 見せる / 遊べる / 遊ばれている / 遊ばれる / 遊ばれる / つくられている / 変化してきている / 伝わってくる / 失われていく / 守り続けてきた / 楽しもう / 注意しよう / 楽しい / 面白い / 多い / おもしろい / きびしい / 美しい / 良い / ほししい / 持ち運ぶ / 大家 / カマケ

※教科書との異同: 5月(教材では1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月)、10km(100km、500km)
 他の頁に記載されている語: ネットワーク(ネットワーク図p.32、p.35)、クリーン活動(p.32)、アウトアスポーツ(p.43)、アイデア(p.35)、エコツアー(p.34)、フェア(北海道物産フェアp.42)

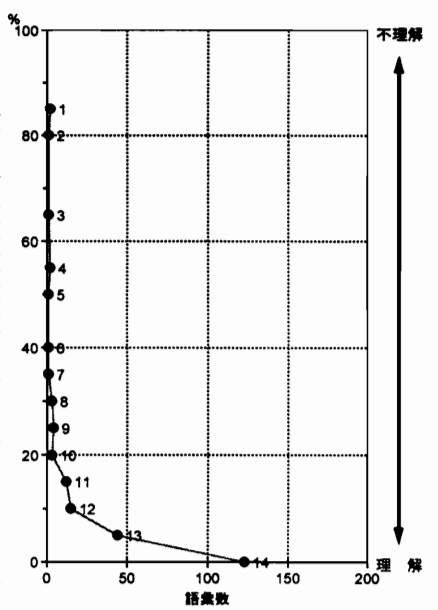
図3 日本人5年生



1) 日本三景 / にっこりますげ
2) 釧路神社
3) 尾瀬ヶ原
4) 海鏡 / 高山植物
5) 気象庁
6) 西ようする
7) アウトアスポーツ
8) 国土 / 研学会 / フェア
9) 北国 / 路面 / 電子メール / まなび方コーナー
10) 四季 / 月別 / 雨 / 合わせ
11) 路面 / 徳島産物 / 表示 / だんぼうする
12) 月別平均気温 / 地形 / 岐阜県 / 徳島県 / 愛媛県 / 南の島 / うずしお / 泉 / 坂道 / 民家 / 筆下校 / 0℃以下 / マイナス 20℃ / ベスト 100 / ネットワーク / クリーン活動 / 貴重な / 伝統的な / 快適な / すいせんする / 伝え合う / 山奥い / 持ち運ぶ
13) 毎日 / 季節 / 真冬 / 冬 / 天気 / 平均 / 気温 / 最高気温 / タ日 / 自然 / 地形 / 環境 / 春 / 水 / 世界 / 日本 / 北海道 / 町 / 場所 / 周辺 / 外 / 中 / 家 / 神社 / 学校 / 校舎 / もの / わかぬ / 手紙 / 写真 / 新聞 / 返事 / 授業 / 体育 / 英語 / わかぬ / 宝物 / 資料 / 友だち / 相手 / 気持ち / 努力 / くふう / 工事 / メール / アイデア / イベント / スキー / オリジナル / フェスタ / エコツアー / スピードスケート / 1995年 / 10 km / 1組 / する (勉強を-) / 求める / 見直し始めている / ちがひ / 調べる / 調べる / 見られる / 失われていく / 守り続けてきた / 大家 / カマケ
14) 未来 / 現在 / 前 / 平成 / 日 / 毎日 / 神々 / 歴史 / 四季 / 季節 / 春 / 夏 / 秋 / 真冬 / 冬 / 天気 / 平均 / 気温 / 最高気温 / タ日 / 自然 / 地形 / 環境 / 春 / 水 / 世界 / 日本 / 北海道 / 町 / 場所 / 周辺 / 外 / 中 / 家 / 神社 / 学校 / 校舎 / もの / わかぬ / 手紙 / 写真 / 新聞 / 返事 / 授業 / 体育 / 英語 / わかぬ / 宝物 / 資料 / 友だち / 相手 / 気持ち / 努力 / くふう / 工事 / メール / アイデア / イベント / スキー / オリジナル / フェスタ / エコツアー / スピードスケート / 1995年 / 10 km / 1組 / 一つ / ちがひ / 良さ / 大切な / 楽しさ / 楽しさ / 祭り / 必要 / 同じ / 必要 / 巨大な / 大切な / 書く / 見る / 聞く / 送る / 質問する / 調べる / 守る / とる (金メダルを-) / 知る / 探す / 向ける / すぐす / 覚悟する / たしかめる / 体験する / 調べる / 読み取る / 思う / 遊ぶ / 住む / 来る / ある / 覚悟する / こある / わかる / できる / 伝える / 見せる / 遊べる / 遊ばれている / 遊ばれる / 遊ばれる / つくられている / 変化してきている / 伝わってくる / 失われていく / 守り続けてきた / 楽しもう / 注意しよう / 楽しい / 面白い / 多い / おもしろい / きびしい / 美しい / 良い / ほししい / 持ち運ぶ / 大家 / カマケ

※教科書との異同: 5月(教材では1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月)、10km(100km、500km)
 他の頁に記載されている語: ネットワーク(ネットワーク図p.32、p.35)、クリーン活動(p.32)、アウトアスポーツ(p.43)、アイデア(p.35)、エコツアー(p.34)、フェア(北海道物産フェアp.42)

図4 日本人6年生



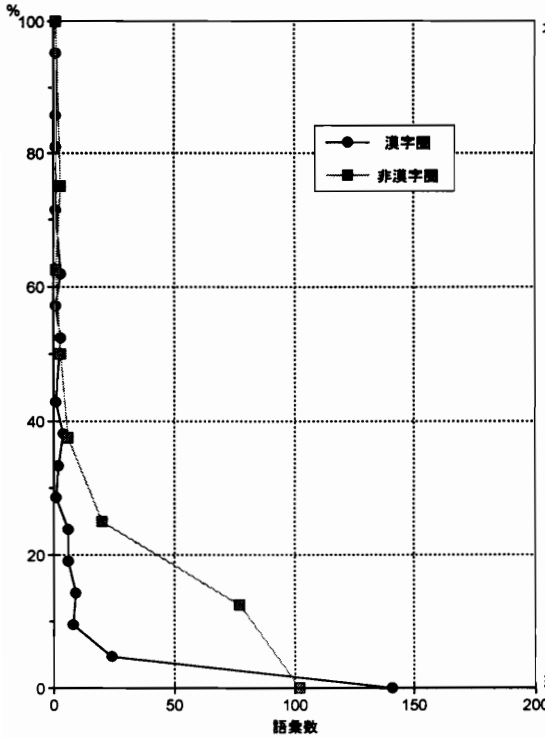


図5 留学生の語彙習得

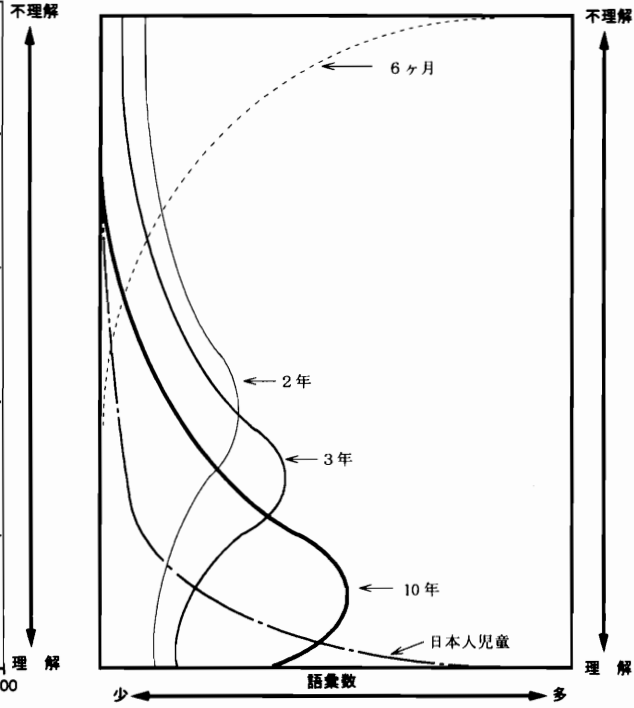
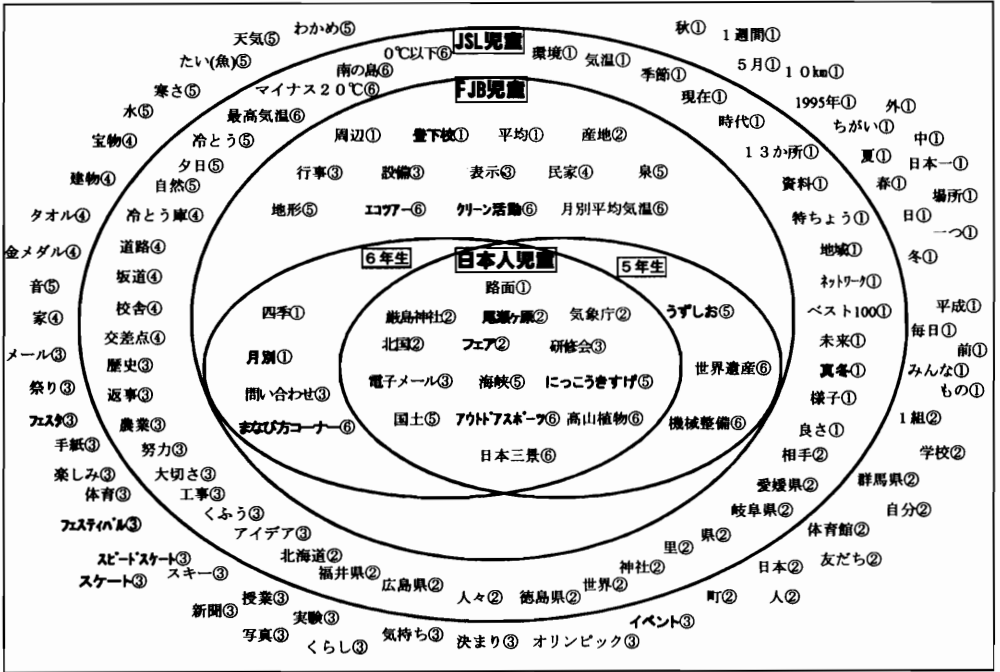


図6 外国人児童の語彙習得モデル



(※ゴシック体太字は漢字圏留学生)

図7 不理解語彙の共通項 (20%以上)

ている語彙は日本人児童に近い。語彙習得に在り期間だけでは説明できない要素があることがわかる。頂点(もっとも語彙数の多い値)がJSL 児童全体 11.8 %、FJB 児童 9.1 %、日本人児童 0 %と、日本語力に比例して値が下がっている。外国人児童の在り期間で区画した場合、2年以内(5人)の頂点が不理解者数 40.0 %、3年以内(9人)が 22.2 %である。外国人児童の語彙習得モデルを表すと図6のようになる。

留学生(図5)は FJB 児童と日本人児童の中間に位置している。留学生は、日本で生れ育った FJB 児童よりも理解語が多く、日本人児童よりは少ない。非漢字圏の留学生でも FJB 児童より理解語が多いことから、第一言語(母語)能力が第二言語(日本語)習得に及ぼす影響の大きさがわかる。第一言語で学習した内容が第二言語に移行(transfer)しているものと考えられる。留学生の日本語学習歴は漢字圏 2年 11.1ヶ月、非漢字圏 5年 1.1ヶ月である。漢字圏留学生の方が日本語学習歴は浅いが理解語は多い。今回用いた調査項目には中国語と同じ表記のものも多く(発音は異なる)、漢字圏留学生は語彙習得に非常に有利であることがグラフには表れている。

4. 不理解語彙の共通項

難易度が高い語彙のほとんどは体言であり、今回は体言の共通項を抽出してみる。図7は 20 %以上不理解者がいる体言の共通項である。①から⑤までの分類は基本的に国立国語研究所編(2004)の分類に従った(注5)。①は抽象的關係、②は人間活動「主体」、③は人間活動「精神および行為」、④生産物および用具、⑤自然物および自然現象、⑥国立国語研究所編(2004)にない複合名詞である。

JSL 児童の不理解語彙は他のすべての不理解語彙を含んでおり、FJB 児童の不理解語彙は日本人児童の不理解語彙をすべて含んでいる。日本人 5・6年生の共通項はすべての属性における不理解語彙であり「路面/巖島神社/尾瀬ヶ原/気象庁/北国/フェア/研修会/電子メール/海峡/にっこくすげ/国土/アウトドアスポーツ/高山植物/日本三景」の 14語で、専門性が強い語彙である。専門性の強い語彙は、日本人でもある程度不理解者がいる。日本人児童は理解しているが、FJB 児童は不理解である語彙が 13語で「季節/真冬/周辺/時代/神社/行事/冷とう/校舎/交差点/たい(鯛)」など、家庭での会話で使われると思われる語彙が多く含まれる。ここから、FJB 児童と日本人児童の語彙理解の差は家庭での言語生活が大きな要因であると考えられる。

漢字圏留学生は FJB 児童にパターンが似ているが、JSL 児童でも理解できている「フェスタ/フェスティバル/スケート」などのカタカナ表記の外来語が理解できていない点の特徴的である。

5. 語彙の難易度と基本語彙の相関関係

工藤(1999)では 6種類の資料に共通する語から 3種類の資料に共通する語までの調査結果が提示されている。その結果を利用して、資料における共通項と語彙の難易度(図1～図4の縦軸)との相関関係を分析してみる。6種類の資料に共通する語を 1点、5種類の資料に共通する語を 2点、4種類の資料に共通する語を 3点、3種類の資料に共通する語 4点、上記以外の語を 5点とする。この数値と今回の語彙調査で得られた難易度の相関(単相関係数)を求めると表1のようになる。

表 1 基本語彙と語彙難易度の相関係数

	JSL 児童	FJB 児童	5 年生	6 年生
基本語	.528**	.451**	.280**	.305**

** は $p < .01$

点数化の方法から、係数が正であれば共通する資料が少ないほど難易度が高いことになり、負であれば逆になる。表 1 ではすべて正なので、共通する資料が少ない語ほど児童にとって難易度が高い関係にあることがわかる。JSL 児童の値がもっとも高く、日本人の値が低い。日本人の場合 5・6 年生になると基本語は既にほぼ身に付いているために相関係数が低くなる。基本語を身につけている段階の JSL 児童の場合、値が .528 でかなりの相関が認められ、FJB 児童では .451 と少し数値が下がるが、やはりかなりの相関が認められる。今回の調査から、資料の共通項により基本的な要素を認定することは有効であると考えられる。ただし、高い相関が認められる程度には達しておらず、説明できていない要素も大きい。児童にとっての語彙の難易度にはさまざまな要因が関係している。

6. 語彙の習得と母語使用

母語の使用が日本語の語彙習得にどのように影響しているのかを分析してみる。一日に母語(保護者の母語を含む)を使用する時間と、今回の語彙調査で得られた結果との単相関係数を求めると JSL 児童 .625**、FJB 児童 .374(**は $p < .01$)となる。JSL 児童の場合、かなりの相関が認められ、母語使用時間が長ければ長いほど不理解語が多いということになる。日本語を習得していなければ、使用するのは母語だけなので、母語使用時間が長い話者ほど日本語習得率が低いのは当然の結果ともいえる。また、在日期間の長い話者は、家庭でも母語ではなく日本語を使用することが多くなる傾向にある。

FJB 児童においても母語使用時間と低い相関がある ($p < .10$)。家庭で日本語しか使用しない FJB 児童の不理解語数の平均は 20.7 語であるのに対して、母語を使用する FJB 児童の不理解語数の平均は 46.0 語である。日本語しか使用しない児童と母語を使用している児童とでは倍以上の違いがある。これは二言語併用が問題なのではなく、家庭環境に要因があると考えられる。在日期間では説明できない大きな要素がこの家庭環境である。家庭で母語を使用する場合、母語教育のことを考えて母語を使用している例は少なく、保護者が日本語ができないために母語を使用している場合が多い。母語の使用ではなく母語の学習時間と不理解語数の単相関係数を求めると -.10 であり相関関係は認められない。つまり、家庭で母語を使用する状況では、日本語、母語ともに教育する環境が整っていないことが考えられる。家庭で母語しか使わない児童には、日本のテレビ放送を見ずに母国の放送(インターネット)しか見ない話者も多く、日本の社会に溶け込もうとする意識も希薄になりやすい。また、保護者の労働条件が良くない場合も多く、保護者自らが日本語を学習することができないだけでなく、子どもの教育にも手が回らないことが多い。そのような場合、児童たちはセミリンガルになる危険性がある(注 6)。

7. おわりに

今回、JSL 児童の教科学習を困難にしている大きな要因に文章語があり、さらに困難にしている要因に専門語がある状況が確認できた。また、FJB 児童の実態が一部明らかとな

った。従来は、日本生れの日本育ちであるがゆえに、特別な教育支援は必要ないと考えられがちな FJB 児童であるが、JSL 児童同様の支援が必要な場合がある。母語である程度の概念形成をしてきた JSL 児童よりも深刻な状況に面している FJB 児童も確認できた。

【注】

- 1) 真岡西小学校の日本語指導担当教員4人に、もっとも困難を伴う学年と教科を確認したところ、高学年の社会科という回答が得られた。授業についてこられない児童が急激に増加することである。
- 2) 語彙の区切り方であるが、国立国語研究所編(1984b)の W 単位を基本としたが、動詞は助動詞等を含めた「注意しよう」「努力している」「伝わってくる」「お答えする」などを1単位として扱った。また、形容動詞は「～な」の形で提示した。外来語数が少なかったため、他のページに記載されていた外来語6項目「ネットワーク/クリーン/アウトドアスポーツ/アイデア/エコツアー/フェア」を加えた。
- 3) 早野(2006)では、文字言語に基づいた国語科の学力が日常的コミュニケーション能力と結びつきにくいことを論じている。生活語が教科教育の学力と結びつきにくい例といえる。
- 4) その語形では含まれていないが、「日本三景」「世界遺産」「機械整備」の要素(形態素レベル)である「日本」「世界」「機械」などは工藤(1999)で6種類の資料に共通している。
- 5) 次の語は分類語彙表に記載がなかったが、類似する用例から筆者が分類を行った。「登下校/10km/1週間/ベスト100/1995年/13カ所/良さ」は①、「1組/群馬県/福井県/岐阜県/広島県/徳島県/愛媛県/尾瀬ヶ原/厳島神社」は②、「大切さ」は③。
- 6) 今回調査した FJB 児童は21人であり、セミリンガルと思われる児童が数名含まれていた。偶然である可能性もあるが、佐藤和之(真岡西小)の話では、日本人の数倍の割合で特別支援が必要な FJB 児童がいるとのことである。就学している児童でも、このような状態なのであるから、不就学の児童を考慮すると、現在の日本はセミリンガル話者を生じさせる危険性が高いといえる。

【参考文献】

- 工藤真由美(1999)『児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査』ひつじ書房
- 工藤真由美・木幡智美・玉井裕子(1999)「児童生徒に対する日本語教育のための語彙調査—教科書の語彙との比較調査から—」『国文学 解釈と鑑賞』64-1 至文堂
- 国立国語研究所(1984a)『日本語教育のための基本語彙調査』秀英出版
- 国立国語研究所(1984b)『高校教科書の語彙調査Ⅱ』秀英出版
- 国立国語研究所(2004)『分類語彙表(増補改訂版)』大日本図書
- 白鳥智美・玉井裕子・小澤容子・樋口万喜子(2000)「児童生徒に対する日本語教育のための語彙調査—社会科教科書の語彙—」『2000年度日本語教育学会春季大会予稿集』
- 早野慎吾(2006)「教養としての日本語—国語の学力について—」『宮崎大学教育文化学部付属教育実践センター研究紀要』14
- 松井洋子・早野慎吾(2006)「年少者に対する日本語教育支援に関する研究—宮崎地区の現状と課題—」『宮崎大学教育文化学部紀要人文科学』15

【付記】本発表は、発表者および次のメンバーで行っている共同研究による。

宮田好恵(三松小学校)・佐藤和之(真岡西小学校)・小田原恵美子(宮崎大学院生)・永田剛(久留米ゼミナール)
川添桃・田村京子(宮崎大学教育文化学部附属中学校)